

再流行するウイルス対策：クリスパタス菌KT-11の効果

乳酸菌・クリスパタス菌KT-11株 (*Lactobacillus crispatus* KT-11株) は過去の研究により、感染症を引き起こすウイルスから身を守る役割を持ち合わせていることが明らかとなっています。

今回は改めて流行傾向にあるインフルエンザや、子供がかかりやすいロタウイルスに対する感染抑制データを、直近の感染状況とともにご紹介します。



● インフルエンザ：2023年は増加速度がコロナ前レベルに ●



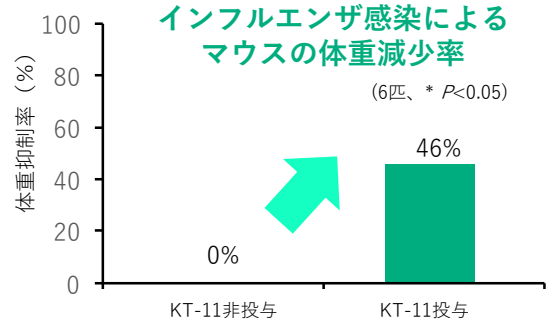
新型コロナウイルスが流行して以来、感染対策が強化されまん延されることが無かったインフルエンザウイルスですが、2022年12月には東京都福祉保健局より、3年ぶりの流行シーズンとなることが発表されました。感染者数の増加はコロナウイルス流行前のベースと同等となっているため、本格的な感染対策が求められています。

(東京都保健福祉局 2022年12月22日 報道発表資料)

インフルエンザウイルスに対する 感染症状緩和効果

日本食品科学工学会. 2015.

クリスパタス菌KT-11を事前投与したマウスでは、インフルエンザウイルスの感染に伴う症状である体重減少の緩和が認められました。クリスパタス菌を摂取することによりインフルエンザの感染防御機構を強化させ、症状を緩和することが示唆されています。



● ロタウイルス：乳幼児を中心に国内約80万人が感染 ●

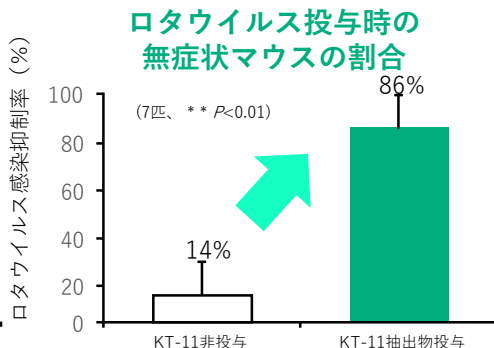
ロタウイルスは主に腸内に感染するウイルスの一種で、小児の喉頭炎や下痢症を引き起こします。世界的には発展途上国での感染拡大が問題となっていますが、日本でも年間患者数は約80万人、入院者数は乳幼児を中心に約7-8万人に及びます。ウイルスが低温で長期間生存することができるため、冬季に感染リスクが高まることから、感染対策の強化を必要とされています。(股洪感染症学会)



ロタウイルスに対する 感染症状緩和効果

日本畜産学会. 2017.

クリスパタス菌KT-11の抽出物を事前投与したマウスでは、下痢症を引き起こすロタウイルスの感染における下痢症状の抑制が認められました。KT-11は血液型糖鎖抗原を標的とするウイルスや細菌に対して競合的結合により感染を抑制する可能性が示唆されています(日本畜産学会.2021)。



カラダにオイシイ、キッティイ。

Kitiï

機能性原料の情報はHPまで！

株式会社キティー <https://www.kitii.co.jp/>
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-6-1

